

01	名古屋	豊岡小学校	イノマタ チサト 名前 猪 又 千 智
分科会番号	1	分科会名	国語教育(作文その他)

「もっと」を未来の学習に生かす児童の育成（小2年） ～「見通し」と「振り返り」を通して～

1 はじめに

児童は学習に対する意欲が高まると「もっと」という言葉を口にすることがある。しかし、国語科の「書くこと」の学習において、その言葉を頼りに児童自身で学習を進めると、情報量や文章量を増やすだけで伝えたいことが定まらないことが多い。そこで、名古屋市教育委員会から発出された「ナゴヤ学びのコンパス」で挙げられた「学びに見通しをもち、振り返りながら学び続ける」に注目した。「書くこと」の学習において「見通し」と「振り返り」に重点をおくことで、自分が集めた情報を整理しながらまとめることができ、書く内容の中心が明確になる。そうすれば、「もっと」が「〇〇のためにもっと〇〇したい」という具体的な思いに代わり、未来の学習に生かせるのではないかと考えた。

4月、見通しをもたせるため、授業の初めに本時の計画を立て、終わりに次時の学習に生かすための振り返りを記述させた。すると（資料1）のような記述が多く見られた。まず、見通しをもたせることの難しさを感じた。単元の学習目標を確認しても、それを児童自身が自分の学習に置き換えて考えることは難しいようであった。見通しがもてない以上、次時に生かすことができるような振り返りを行うことも難しかった。

【児童が書く計画】 ・がんばって書く。 ・きれいに書く。 ・しんげんにやる。 ・楽しんでやる。 ★ 端的な言葉で書いており、具体的ではない。		【児童が書く振り返り】 ・がんばってできた。 ・できてうれしかった。 ・難しかった。 ・またやりたい。 ★ 感想で終わってしまう。 ★ 学習過程や次時に向けての記述がない。	
資料1：4月当初の児童の記述			

2 実践計画

(1) 対象 第2学年 21人（令和7年度）

(2) 方法

① 【手だて1】 ヘルプミー！（手本の活用）

見通しをもって学習に取り組むために、二つの手本「まだまだ(学習目標を押さえていないもの)」と「スキルアップ(学習目標を押さえているもの)」を活用した。見比べることで身に付けたい力を捉え、どのように生かすと良いかを確認できるようにし、見通しをもって学習に取り組むことができるようにした。また、自分の文章とも比べることで、「もっと〇〇したい」という思いにつなげたり、振り返りを行う際の視点にしたりして書き進めることができるようにした。

② 【手だて2】 ミライシートの工夫

毎時の学習を具体的に振り返り、次時の学習に生かすために「ミライシート」を活用した。単元の学習内容や進め方などが一覧で見られるようにし、授業の初めにミライシートを確認した後、学習計画を立てた。授業の終わりには、10分間の「振り返りタイム」を設け、本時の学習を振り返るようにした。学習を経て、良かった点は「+」、反省点や課題点は「-」、学習全体を踏まえて次時に向けてどうするかは「→」で記述するようにし、次時の学習につなげていくことで、書く内容を明確にしていくことができるようにした。

3 授業実践

第一次実践「かんさつ名人に なろう」

★ 学習の流れ

めあて：丁寧に観察して、様子や動きを表す言葉を使って記録する。

第一時：学習の見通しをもつ

第二～三時：観察する

第四～五時：書き方の確認

第六～九時：記録を書く・読み合う
※第八・九時は、学習進度によって自分で選択する。

第十時：読み合う・まとめ

【手立て1】 ヘルプミー！（手本の活用）

学習の初めに二つの手本を比べることで、身に付けたい力を確認し、見通しをもたせる。

【手立て2】 ミライシートの工夫

授業の初めに、何を行うか、どのように行うか等、学習計画を立てて記述する。
授業の終わりの10分間の「振り返りタイム」で、本時の学習について振り返りを記述し、次時の学習に生かすことができるようにする。

まだまだ

スキルアップ

資料2：第一次実践の第一時で見た手本

(1) 【手だて1】 ヘルプミー！（手本の活用）

第一時で「まだまだ」と「スキルアップ」の二つの手本（資料2）を見せた。どのように違うかを問うと、「詳しく書いてあると分かりやすい」「気持ちを書いてあるのがいい」などと意見が出た。目指す文章が明確になったことで、学習の見通しをもつことができた。「スキルアップ」を目指すために、どのような視点で観察をすると良いかを学級全体で確認した後、実際に観察を始めると、「なすの花びらは紫色だね」「花の真ん中は濃い紫色だよ」など、他の児童と相談しながら細かく見ることができた。しかし、記録を書いていく上で、集めた情報をどのように記述していけば分かりやすくなるのかを考えるのが難しい児童がいた。

(2) 【手だて2】 ミライシート（資料3）の工夫

資料3：第一次実践で活用した「ミライシート」

資料4：児童Aの振り返りと観察記録の一部

学習に対して熱心で細部にまでこだわるができる児童Aは、第六時のミライシート（資料4）に、学習の取り組み方について具体的な計画を立てることができた。計画に合わせて、観察記録には、観察した植物の詳しい情報を書くことができた。そして、振り返りには、「もっといいねいに絵を描きたい」と記述し、次時の学習にむけた具体的な思いをもつことができた。

「書く」「表現する」ことに苦手意識があり支援が必要な児童Bは、単元の初めには振り返りを何か一つ書くだけでも精一杯という様子だった。しかし、第六時の振り返り（資料5）では、「＋、－、→」の全てを記述することができた。これは、ミライシートによって学習進度が把握しやすくなり、目指す文章に近づくためには何に取り組むべきか、見通しをもつことができたからだと考える。見通しをもったことで、何について振り返るべきか明確になり、自信をもって記述できるようになった。

資料5：第六時の児童Bの振り返り

他の児童も、学習に対する見通しをもつことや、計画に沿って学習できたか否かを振り返ることができた。しかし、自分の伝えたいことを明確にするために必要な情報を整理したり、文章構成を見直したりするといった振り返りはされていなかった。また、本時の学習を踏まえて次時に何をするとよいかを具体的に記述したり、前時の振り返りを生かして計画を立てたりすることができる児童も少なかった。毎時の学習につながりをもたせる手だてが必要だと感じた。

(3) 成果と課題（成果：○、課題：●）

- 二つの手本を比べることで学習する内容が明確になり、見通しをもつことができた。
- ミライシートでの振り返りを通して、自分の学習を見つめ直すことができた。
- 手本により見通しをもつことはできたが、どのような学習に取り組み、どのように手本に近づけるかを具体的に考えることが難しかった。
- 振り返りを書くことはできたが、国語の「書くこと」に関する記述は少なかった。また、振り返りを生かした計画を立てたり、次時につながる内容を書いたりすることができなかった。

第二次実践「おもちゃの作り方を せつめいしよう」

(1) 【手だて1】 ヘルプミー！（手本の活用）

第一次実践では、見通しをもつことはできたが体験したり調べたりして集めた情報を自分の学習にどのように生かすとよいかを考えることが難しい児童もいた。そのため、第二次実践では、学習の進度に合わせ、第一～三時では組み立て表、第四時では説明する文章の手本（資料6）をそれぞれ二つ見せた。学習のポイントを、それぞれの学習の直前に押さえることで、文章を書く上での見通しをもたせ、自分の学習に生かすことができる。

★ 学習の流れ

めあて：順序に気を付けたり書き方を工夫したりして、おもちゃの作り方を分かりやすく説明する。

★…第一次実践からの改善点

第一時：学習の見通しをもつ 第二～三時：組み立て表を書く 第四時：説明する文章を書く 第五～七時：説明する文章を書く または絵を描く・写真を撮る ※ 学習進度によって、自分で選択する。 第八時：読み合う・まとめ	【手立て1】 ヘルプミー！（手本の活用） 学習の初めに二つの手本を見比べることで、身に付けた力を確認し、見通しをもたせる。 ★ チェックリストを作成する。 【手立て2】 ミライシートの工夫 授業の初めに、何を行うか、どのように行うか等、学習計画を立てて記述する。 授業の終わりの10分間の「振り返りタイム」で、本時の学習について振り返りを記述し、次時の学習に生かすことができるようにする。 ★ 次時の学習の計画を立てる際に、本時の内容を生かすことができるように振り返りの記述欄を改良する。 ★ 振り返りの記述の仕方を考える「ミラライタイム」を設定する。
--	--

まだまだ	スキルアップ
(4)  (3)  (2)  (1)  「プラネタリウム」の作り方 プラネタリウムの作り方をせつめいします。 アルミホイルボンドカラーペン カップめんのようきんカッター アルミホイルを切って、ようきにボンドで貼って、カラーで色をぬいでいきます。好きなように色をぬいで、できあがりです。	(4)  (3)  (2)  (1)  「プラネタリウム」の作り方 カップめんのようきんをつかった、プラネタリウムの作り方をせつめいします。 アルミホイル ボンド カラーペン まず、カップめんのようきんより、大きめにアルミホイルを切ります。 つぎに、カップめんのようきんの外がわをアルミホイルでしかりおおい、ボンドではりつけます。 それから、カラーで色をぬいていきます。大きさは、自由ですが、しかりとかんづけをせよ。 さいごに、カラーペンですきなようにをかいてできあがりです。

資料6：第二次実践の第四時で見せた手本

二つの手本を比べることで、既習事項である「順序が分かる言葉や箇条書きを使うとよい」ことや、「分かりやすい説明にするには詳しい情報が必要である」ことを想起することができた。児童が気付いたことは、「スキルアップ」の手本上に赤でマークしていき、書く時のポイントとして共有した。それを基に分かりやすく説明を書くための「チェックリスト（資料7）」を作成し、いつでも見返せるように「ミライシート」に貼った。「チェックリスト」を見ながら、毎時の計画を立てたり振り返りをしたりしたことで、児童は自分がどこまでできているかを考えて学習することができるようになった。

(2) 【手だて2】 ミライシート（資料8）の工夫

第二次実践で使用する「ミライシート」は、振り返りを「+・-・→」の項目ごとに分けて見やすく書くことができるように形式を変えた。「→」は毎時必ず書くように意識させ、次時に計画を立てる欄と「」でつなぎ、学習のつながりを可視化した。計画を立てる時は、必ず前時の「→」を確認してから行い、振り返る時は、必ず計画を確認してから行うというサイクルをつくることで、児童が学習のつながりを意識できるようにした。また、「チェックリスト」を踏まえることで、自分の伝えたいことが明確になるように、おもちゃ作りをするために必要な集めた情報をどのように集め、整理して書き進めるかを考えたり、分かりやすい説明にするためにどのような工夫をするかを振り返ったりしながら学習を進めることができるようにした。

おもちゃの作り方をせつめいしよう チェックリスト	
【前書き】	チェック
★ 何を作るか（どういうおもちゃか）が分かるように書く。	
★ 作ってみたいかなるよう書く。	
【ざいりょうとどうぐ】	チェック
★ なんているかや大きさが分かるようにする。	
★ 「・」をつかって書く。	
【作り方】	チェック
★ 「じゅんじょ」が分かることばをつかう。	
★ 作るときのちゅうい、作る時のコツを書く。	
★ どのようにすすめるか分かるように、こまかいせつめいを書く。 → 大きさ むき おりかた など	
★ ていねいことばで書く。	
★ しやしんや絵をつかう。	
【あそび方・楽しみ方】	チェック
★ どうやってあそんだら楽しいかを書く。	

資料7：第二実践で作成したチェックリスト

目ひょう		3 けいかくとふりかえり（+、-、→で書こう！）																			
・おもちゃの 作り方を 分かりやすく せつめいしよう！ ・せつめいする じゅんじょに 気をつけよう！ ・じゅんじょが分かることばや 絵などをつかって 書こう！		1/8 月 日 () 2/8 月 日 () 3/8 月 日 ()																			
1 ポイント <table border="1"> <thead> <tr> <th>学習</th> <th>ポイント</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>① せつめいするおもちゃをきめる。</td> <td>・生活で作ったものを 思い出そう！</td> </tr> <tr> <td>② せつめいのじゅんじょを考える。</td> <td>・きょ：49ページ「組み立てを考えるときは」</td> </tr> <tr> <td>③ せつめいする又しょうを書く。</td> <td>・きょ：49ページ「作り方をせつめいするときは」 50ページ「じゅんじょが分かるように書く」</td> </tr> <tr> <td>④ 読みあう。</td> <td>・くふうしているところ を見つけよう！</td> </tr> </tbody> </table>		学習	ポイント	① せつめいするおもちゃをきめる。	・生活で作ったものを 思い出そう！	② せつめいのじゅんじょを考える。	・きょ：49ページ「組み立てを考えるときは」	③ せつめいする又しょうを書く。	・きょ：49ページ「作り方をせつめいするときは」 50ページ「じゅんじょが分かるように書く」	④ 読みあう。	・くふうしているところ を見つけよう！	「+」「-」「→」の欄を設け、前時の「→」と次時の計画を  でつなぎ、次時につながる振り返りの内容が書けるようにした。									
学習	ポイント																				
① せつめいするおもちゃをきめる。	・生活で作ったものを 思い出そう！																				
② せつめいのじゅんじょを考える。	・きょ：49ページ「組み立てを考えるときは」																				
③ せつめいする又しょうを書く。	・きょ：49ページ「作り方をせつめいするときは」 50ページ「じゅんじょが分かるように書く」																				
④ 読みあう。	・くふうしているところ を見つけよう！																				
2 学習の見とおしを もとう！ <table border="1"> <thead> <tr> <th>時間</th> <th>学習</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>せつめいしたい おもちゃを きめる</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>おもちゃの作り方を まとめる</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>せつめいのじゅんじょを 考える</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>せつめいする ぶんしょうを書く</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>せつめいする 【 ぶんしょうを書く ・ 絵をかく 】</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>せつめいする 【 ぶんしょうを書く ・ 絵をかく ・ 読み合う 】</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>せつめいする 【 ぶんしょうを書く ・ 絵をかく ・ 読み合う 】</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>読み合う</td> </tr> </tbody> </table>		時間	学習	1	せつめいしたい おもちゃを きめる	2	おもちゃの作り方を まとめる	3	せつめいのじゅんじょを 考える	4	せつめいする ぶんしょうを書く	5	せつめいする 【 ぶんしょうを書く ・ 絵をかく 】	6	せつめいする 【 ぶんしょうを書く ・ 絵をかく ・ 読み合う 】	7	せつめいする 【 ぶんしょうを書く ・ 絵をかく ・ 読み合う 】	8	読み合う	おもちゃの作り方を、くわしく思い出してまとめる。 ◎ けいかくにあわせてふりかえりをしてみましょう！ + しょうずにまとめることができた。 + まとめるのがむずかしかった。 + もっとまとめる。 △ ミライの自分が分かるように書こう！ + 友だちと話しながら、ざいりょうや作り方をくわしく思い出してまとめることができた。 + どうしたら分かりやすくせつめいできるか考えるのが、むずかしそうだった。 + 分かりやすいせつめいができるように、じゅんじょに気をつけて組み立てを考えたい。	
時間	学習																				
1	せつめいしたい おもちゃを きめる																				
2	おもちゃの作り方を まとめる																				
3	せつめいのじゅんじょを 考える																				
4	せつめいする ぶんしょうを書く																				
5	せつめいする 【 ぶんしょうを書く ・ 絵をかく 】																				
6	せつめいする 【 ぶんしょうを書く ・ 絵をかく ・ 読み合う 】																				
7	せつめいする 【 ぶんしょうを書く ・ 絵をかく ・ 読み合う 】																				
8	読み合う																				

資料8：改良した「ミライシート」

また、第一次実践の課題を踏まえ振り返りで次時につながる内容を書くことができるように、振り返りの記述の仕方を考える「ミラレタイム」を設定した。「振り返りタイム」の初めに「ミライの自分が分かる振り返りの仕方」を資料で示し、振り返りを書く際には、詳しくすることと、計画に合わせる必要があると確認した。(資料9)。

児童Bは、第一次実践では、「+・-・→」の全ての振り返りを記述することができるようになったが具体的な内容ではなかった。しかし、「ミラレタイム」で記述の仕方を学んだことで「ミライの自分が分かるように、頑張ったことや次に何をすればいいかを詳しく書こう」と意識して取り組む姿が見られた。「できた」「できなかった」という言葉で済ませるのではなく、「どうして」「何が」など、自分の学びを具体的に振り返り記述することができた。おもちゃ作りの説明を書く際には、集めた情報を整理しつつ、分かりやすく書こうという姿が見られ、振り返りには「自分が作ったおもちゃを見ながら書けた」と記述していた。また、第五時の、次時につながる内容を書く「→」には、残りの時間配分まで記述しており、自分の学習について以前よりもしっかり考えることができた。

児童Aの振り返りの記述は、毎時の計画に合わせてミライの自分が分かるような詳しい内容になっていた(資料10)。また、前時の「→」の内容を基に、次時の計画を立てており、学習のつながりを意識することができていた。実際の文章を見ると、第五～七時にかけて、順序が分かる言葉を書き加えていたり、友達から受けたアドバイスを基に、枠に収まるように見やすく書き直したりしており、振り返りを生かして取り組むことができていた(資料11)。また、友達と「チェックリスト」を基に確認することで、「作るときのコツ」も書き加えるなど、「書くこと」の内容を意識して自分が伝えたい内容をより詳しく明確にしていくことができた。第一次実践の振り返りでは、計画に沿って学習ができたか否かの記述で終わることが多かったが、第二次実践で「→」を意識させたことで、前時の学習を次時の学習に生かす記述が見られるようになった。

パワーポイントの資料一部抜粋

【ミラレタイム:ミライの自分のために詳しく書く例】

どうやって書くといい?

+ 文章がうまく書けた。

+ スキルアップのお手本を見て、書き方をかくにしたら、うまく書けてうれしかった。

【ミラレタイム:計画に合わせて振り返りを書く例】

どうやって書くといい?

けいかく:せつめいが分かりやすくなるように、文を書こう。

+ 文に合わせて、読む人が分かりやすくなるように、絵をかくことができた。

+ 友達にそうしたら、文しようがくしく書けてうれしかった。

資料9:「ミラレタイム」を生かした児童Bの振り返りの記述

児童B 第五時と第六時の振り返りの記述

5/8 12月1日 (月)

ミライの自分のために詳しく書いた。

6/8 12月2日 (火)

計画に合わせた振り返りを、B兄なりに具体的に書いた。

資料10: 第五時～第七時の児童Aの振り返り

5/8 12月1日 (月)

5/8 12月2日 (火)

5/8 12月3日 (水)

第五時の「順序の言葉を入れていない」という気持ちから、次時は「順序がわかる言葉を入れよう」という見直しをもった。

第五時の振り返りを基に、第六時に「順序が分かる言葉を入れる」と計画を立てた。さらに、その計画を基に、第六時の振り返りを行っている。

第六時では「友達にアドバイスをもらうことで、文章をもっとよくなりたい」という思いをもった。

第七時では「友達と話しながらやろう」と計画を立てた。実際に取り組んだ結果を、振り返りに記入した。

順序が分かる言葉を書き加えた。

資料11: 第五時から第七時にかけての児童Aの文章の変化

チェックリストで確認をして、作時のコツを加えるともっと良くなることに気付いた。

友達から受けたアドバイスを基に、枠内に収まるように書き直した。

学級全体に目を向けても、学習のつながりを意識して振り返りを記述する児童が増えた。これまでは、児童が「もっと」という思いをもつことができて、学習に生かすことは難しかった。しかし、「ミライシート」を改良し、さらに「ミラレタイム」を設定したことで、児童の「もっと」という思いが少しずつ具体的になり、次の学習に生かす姿が見られるようになった（資料12）。二年生の児童にとっては、前時と次時の学習のつながりを可視化することが効果的だったと感じた。

【児童が書く計画】 ・ じゅんじょが分かることばをいれて、くわしく書く。 ・ 友だちといっしょにやって、いいアドバイスをもらう。 ★ 前時の振り返りを基に、具体的に記述している。	【児童が書く振り返り】 ・ じゅんじょがわかることばをつかって、分かりやすく書けた。 ・ 自分でかくにんできなかったから、次は友だちに見てもらう。 ★ 学習のつながりを意識して、次時に向けての記述をしている。
資料12：実践後の児童の記述	

「ナゴヤ学びのコンパス」で挙げられた「見通し」や「振り返り」を基に実践を進めたことで、児童の「もっと」という思いが具体的になり、より良い文章を目指して学び続ける姿が見られるようになった。その過程で、自分の文章と手本を比べたり、チェックリストを用いて見直したりすることで、集めた情報を整理し、自分の伝えたいことを明確にする力が付いてきた。一方で、書くことに苦手意識がある児童の「ミライシート」には、「〇〇に聞く」など自分にとって楽な方法で学習に取り組もうとする記述が目立った。また、改善方法が分からないため学習が進まず「次も〇〇をやる」など同じ記述が続く児童もいた。今後は、様々な学習方法を紹介することで、児童が自分に合った方法を選択し、自らで書く力を付けることができるようにする必要があると考える。

(3) 成果と課題（成果：○、課題：●）

- 「チェックリスト」を用いたことで、自分が伝えたい内容を明確にするために何が必要かを考え、作文に取り組むことができた。
- 「ミライシート」を改良し「ミラレタイム」を設定したことで、「ミライの自分が分かる振り返り」を意識することができ、前時と次時の学びにつながりをもたせることができた。
- 振り返りにおいて、毎時「友達とやる」「一人でやる」など、学習方法が一定になりがちで、自分の文章に合った「書くこと」に対する具体的な学習方法を書くことが難しかった。

5 おわりに

本実践を経て、国語科の書く学習に関しては、「学びに見通しをもち、振り返りながら学び続ける」ことで、「もっと」という思いが具体的になり、学習に対する意欲の向上とともに、「書くこと」の力の伸びを感じることができた。しかし、学習に対する「〇〇のためにもっと〇〇したい」という思いに合わせた学習方法を考えることは、第二学年の児童にとって難しかったようである。また、「困ったときは人に聞いて解決する」など、楽な方法に偏ってしまう児童も見受けられた。今後は、学習進度や方法、内容などを自分の思いに合わせて組み立てていくことで、自らの学びをより深めていくことができるようにしたい。そのために、国語科の授業を行う中で、様々な学習方法を体験させることができるよう、私自身も研鑽を積んでいきたい。